

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201278		
法人名	株式会社 アース		
事業所名	グループホームもも 清水銀座 2階		
所在地	静岡県静岡市清水区銀座1-18		
自己評価作成日	平成29年 8月10日	評価結果市町村受理日	平成 29年 9月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者になっても住み慣れた地域で安心して暮らせることが出来る社会づくりを目標にご利用者様はじめ、ご家族や地域の皆様にご理解して頂いた上、安心してサービスを受けて頂くため、良いケア、安心して頂けるケアが継続して出来るように、研修の参加や会議及びカンファなどを行っています。そういう事を行い、「その人らしさ」を大事にし、お客様がいつも笑顔でいれるように努力しています。またひとりひとりのお客様の残存機能(出来る事)を活かすようにはしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201278-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成29年 8月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は利用者の意思を尊重して傾聴に徹し、思いや要望の把握に努めている。気分を変え、笑顔になれるよう事業所の外に出て駐車場のベンチに座っておしゃべりや屋上に出て外の景色を見たり、夕涼みや花火見物などで楽しめるようにしている。「買い物に行きたい」希望は多く、近くの商店や併設事業所の車を使用し馴染みの店や大型スーパーなど出かけられるように取り組んでいる。職員は利用者の残存能力を活かして生きがいを持って過ごせるよう以前からの趣味や本の購読、利用者が決めたりハビリと一緒に取り組めるよう支援している。3階の口腔ケアの洗面台に食事時の利用者に配慮して目隠しを職員が手作りするなど職員は常に何かしてあげたいと会議や日常的に行事の提案や意見を言っていて、皆で検討し反映させるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、職員全員で共有しています。理念の説明は入社時に社内研修の中で伝えています。	「みんなが笑顔になる社会」の事業所理念に沿って「笑い顔があふれている職場で相手を尊重しコミュニケーションが取れているチーム作り」の目標を立て、管理者・職員は利用者の思い・要望を会話や表情から把握し、皆で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加させて頂いており、地域の行事や掃除等に参加しています。	自治会の活動は少なくなっているが、出られる時に職員が参加している。以前ボランティアで来所していた住民は事業所の良き理解者であり、挨拶を交わす関係である。事業所からの発信の一環として住民に声掛けし、事業所主催の秋祭りを計画している。	介護事業所としての特徴をアピールし、地域との連携や交流に繋がるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々や包括、民生員など交流を図るため、数回の座談会を設けています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に一回開催しており、ご意見等に関しては改善策を職員会議で話し合い、サービス向上に活かしています。	1階の小規模多機能事業所と合同で利用者・家族・地域包括職員・民生委員が参加して開催している。会議では地域との連携について等参加者からの意見をサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。議事録を作成しているが、今後は家族への配布を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加は市、包括、民生員の方にはお願いしています。サービスの内容等は会議以外の時にも相談や報告させて頂いています。	3ヶ所の地域包括支援センターと関わり、推進会議へ参加した時以外でも意見を聞いたり、ボランティアのことでアドバイスをもらっている。施設長は行政に必要な書類提出や相談等で出向き、頻りに連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の下、研修等に参加し、職員が理解しケアを行っている。また気になる点はカンファ等で話し合い、記録に残し職員間で共有しています。	職員は身体拘束を理解し、個々の行動パターンを把握してその人に合わせた対応で拘束しないケアを行っている。各階の扉の施錠はせず自由に入出りできる。寝られない時はフロアで職員と一緒に過ごし転倒や転落の不安は少なくなり様子を見て気分を変える等対応している。	

静岡県(グループホームもも 清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加を促し、会議やカンファ時に利用者のケア内容などの見直しを行い、人権尊重について話し合う機会を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には活用出来る様にするため、研修のには参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解して頂ける様に説明させて頂き、不明な点や疑問がある場合には、いつでも相談して頂ける様に配慮、心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご意見、ご要望を頂く機会を設けると共に、面会時や電話連絡等でもご意見を伺えるようにし、改善策を検討しています。	利用者の「買い物に行きたい」の希望は多く、車で大型スーパーに行ったり、近くの商店へ出かけている。利用者の「歯を残すかどうか」で家族から意見があり、家族、医師、事業所の三者で意見の調整を図り何度も話し合いの場を設けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に意見交換を行っています。内容は記録し、職員全員が共有できるようにしています。	月1回のミーティングで職員の意見を聞く機会があり、日常的にも管理者にケアのことやイベント等の提案を伝えている。食事時の利用者に配慮して口腔ケアの洗面台に目隠しを職員が手作りする等、意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	終業時間に関しては、残業ゼロを徹底しています。また職員の状況を把握し、個々の力が発揮出来る様に対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の参加を促しています。モチベーションが保てるように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事例検討会やケアマネ事例検討会等の勉強会の活動に参加して、情報交換しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時からご本人についての情報、生活歴や趣味、嗜好等をお聞きし、ご本人の要望や意見を伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と連絡を取り合い、不安や要望を話す事が出来る様に配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームでは対応できないサービス場合は、ご本人に必要なサービスは何かを、ご家族にお伝えし、必要としているサービスの情報を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事やイベントなどを行うときには、共に楽しむ事が出来る様に、入居者様と介護職員が話し合いを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回、生活の状況や、体調面などについての報告をご家族に郵送しています。衣替えの時期などのご家族のご協力が必要な際には協力して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や散歩等は慣れ親しんだ場所に行っています。 面会に関しては、ご家族から協力を頂きながら、いつでも面会出来る様にしています。	趣味や利用者が決めたりハビリが継続出来るように声掛けしたり、職員が一緒に加わって支援をしている。入居以前から出かけていたショッピングセンターに定期的に出かけたり、思い出の多い、馴染みの秋葉山大祭や清水銀座祭りなどに皆で行く等の支援をしている。	

静岡県(グループホームもも 清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席はご本人が安心して日常生活を送ることができ、他の入居者者と交流が図られるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であればいつでも、ご本人、ご家族からの相談や支援を行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して生活が維持できるようにご本人の言葉や表情などの変化を見逃さないように努めています。	職員は利用者の会話から出た言葉を拾い希望を把握している。新聞を読んで「本の新刊」の話題から、一緒に書店に行くなど希望を把握し支援をしている。表情や動きの変化をキャッチし、思いを図って声掛けして検討し、記録を残して職員で共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時からご本人、ご家族また各関係者から情報を得る努力をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族、関わっている関係者(医療等)から情報を得るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から移行を聞き、医療関係者介護職員の日常観察や意見等取り入れて ケアプランを作成し、ご本人やご家族に説明をし承諾を得ています。	ケアマネジャーは本人・家族の意向を聞いて介護計画を立て、全職員が参加する担当者会議を開いて意見を出し合い検討している。モニタリングは3ヶ月に1回実施し、項目は明確で家族にも職員にわかりやすく、現状に即した介護計画書になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリング記録を行い、情報の共有をしています。		

静岡県(グループホームもも 清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご本人、ご家族のニーズに応える事が出来る様に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内で交流が出来る様、自治会の行事(各祭りや防災訓練などに)参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の要望を重視しています。かかりつけ医との連携を図り、心身共に健康な生活が維持できるように努めています。	協力医は2～3週間に1回の往診があり、連絡は夜間、休日も可能である。入居前からのかかりつけ医受診は家族対応で健康チェック表を渡し対応している。家族だけでは対応が困難な場合は管理者が同行している。協力歯科医は月1回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状況等を看護師に連絡、相談しているので、適切な受診が来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院関係(ソーシャルワーカー)と連絡、連携し、ご家族を含めた情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化について、まずご本人、ご家族の意向を確認しています。意向を確認した上、説明させてもらい承諾を頂いたうえで、かかりつけ医、訪問看護師等の協力、連携をとりながら支援を行っています。	入居時に本人・家族の意向を聞いている。まず医師は家族に状態の説明をし次の段階で家族と事業所で医療が必要であれば病院や訪問看護、夜間、休日連絡が可能のかかりつけ医との連携で家族の協力の下、看取りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議やカンファ時に研修、防災訓練などを行っています。また急変時や事故発生時の対応策は掲示しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設での防災訓練は年3回利用者と共に、行っています。地域の防災訓練にも参加しています。運営推進会議にも防災訓練の報告や防災に関しての情報交換をしています。	冬、火災の避難訓練を行い、2階の利用者を外の非常階段から避難させる訓練を行っている。春、日中に地震・津波を想定して屋上への避難を訓練している。備蓄は食糧・水、毛布・ジャンパーなど用意している。	季節想定(夏の暑さ・冬の寒さ対策)や夜間想定(訓練の実施と、地域との連携)に繋がる訓練の実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重や自尊心の維持を重視しながら、ケアを行っています。	接遇の研修を実施し、職員は利用者によく話しかけ、穏やかに対応している。居室に内鍵を掛けて過ごしたい人のプライバシーの確保を尊重し適切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がいつでも希望や思い伝えて、自己決定ができる様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのお気持ちを重視して、安心と安全の中で日々生活を送ることが出来る様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時の洋服選びはご本人が行っているか、職員がご本人に確認しながら行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と話し合いをし、献立をたてて調理する機会を設けています。	栄養管理された調理済みの惣菜が3食共届き、ご飯と汁物は事業所で調理し、食材の買い物に利用者を出かけている。月2回は希望を聞き、手作り料理や弁当、外食などの「お楽しみの日」を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や分量を提供し、食事・水分摂取量が把握出来る様に記録しています。		

静岡県(グループホームもも 清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態で介助を行いながら、起床時、就寝時、毎食後の口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しており、排泄パターンを把握し、その方にあった介助を行っています。	利用者の状態を把握し、タイミングを見て声掛けしてトイレでの排泄を支援をすることで、状態が良くなり、リハビリパンツ使用から布パンツに代わった改善例があった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりとってもらうのと同時に、散歩や運動をしてもらい、なるべく自然に排便が出る様に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせた入浴を行っています。浴室、更衣室等の温度管理(気温、湯温)には気を付けています。	日曜日以外は湯を沸かしている。利用者の入浴日の朝、午前か午後か希望を聞いて、概ね1日3名、週2回は職員と1対1の会話を楽しみながら入浴をしている。拒む人に無理強いせず、職員を変えたりタイミングを見て声掛けをすることで入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを崩さないように、個々に合った休息時間が確保出来る様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をひとりひとりのファイルに入れ、服薬の注意等把握出来る様にしています。薬に変更があった時などは、申し送り(日誌に記録し)しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で洗濯干し、洗濯たたみ、食事の盛り付け、配膳、片付け、食器洗い、掃除、裁縫など個々に参加出来る事を行っています。		

静岡県(グループホームもも 清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望日でも外出し、数回車で出かけています。必要時にはご家族に協力いただいています。	屋上で洗濯干しをしたり夕涼みや、駐車場に出て椅子に座って外気浴をしている。散歩や近くの商店などへの買い物の機会がある。頻繁に訪問のある家族と車椅子で散歩に出かけたり、家族対応の通院の帰りに夕食や買い物を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせて、ご家族に了承を頂いて、金銭を所持する事が出来ています。外出時には好きな物を選び購入する機会も設けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から自ら電話をしたり、ご家族、ご友人等の電話も取り次いだりしています。手紙も同様に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物、置物(季節の物)を置いて、ゆったりとした家庭的な雰囲気を作るようにしています。	利用者の季節を感じる作品を壁に掲示し手作りカレンダー(日めくり)で日にちの確認をしている。廊下やトイレ前にさり気なくソファが置かれ、居室以外で1人になれる居場所として使われている。利用者の状態を見て、職員が話し合い席位置を決め、穏やかに過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子に座り、ゆったりと過ごす時間をとても大事にしています。自由に好きな場所ですごせています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や、寝具、好きな物を自由に置いて頂いています。また本人が使いやすい様に、家具や寝具の場所もご家族に相談して、置くようにしています。	居室に、自宅より持ち込まれた家具を使い、家族や職員が衣替えや布団の管理をし、整理整頓されている。趣味の本、ぬいぐるみ、アルバムが置かれその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には施錠はなく、階段なども自由に昇降出来る様にしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201278		
法人名	株式会社 アース		
事業所名	グループホームもも 清水銀座 3階		
所在地	静岡県静岡市清水区銀座1-18		
自己評価作成日	平成29年 8月10日	評価結果市町村受理日	平成 29年 9月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者になっても住み慣れた地域で安心して暮らせることが出来る社会づくりを目標にご利用者様はじめ、ご家族や地域の皆様にご理解して頂いた上、安心してサービスを受けて頂くため、良いケア、安心して頂けるケアが継続して出来るように、研修の参加や会議及びカンファなどを行っています。そういう事を行い、「その人らしさ」を大事にし、お客様がいつも笑顔でいれるように努力しています。なるべく入居者様の要望に耳を傾け、こちらの都合での援助しないようにしています。家庭的な雰囲気大切にしているつもりです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201278-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成29年 8月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、職員全員で共有しています。理念の説明は入社時に社内研修の中で伝えています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加させて頂いており、地域の行事や掃除等に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々や包括、民生員など交流を図るため、数回の座談会を設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に一回開催しており、ご意見等に関しては改善策を職員会議で話し合い、サービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加は市、包括、民生員の方にはお願いしています。サービスの内容等は会議以外の時にも相談や報告させて頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の下、研修等に参加し、職員が理解しケアを行っている。また気になる点はカンファ等で話し合い、記録に残し職員間で共有しています。		

静岡県(グループホームもも 清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加を促し、会議やカンファ時に利用者のケア内容などの見直しを行い、人権尊重について話し合う機会を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には活用出来る様にするため、研修のには参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解して頂ける様に説明させて頂き、不明な点や疑問がある場合には、いつでも相談して頂ける様に配慮、心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご意見、ご要望を頂く機会を設けると共に、面会時や電話連絡等でもご意見を伺えるようにし、改善策を検討しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に意見交換を行っています。内容は記録し、職員全員が共有できるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	終業時間に関しては、残業ゼロを徹底しています。また職員の状況を把握し、個々の力が発揮出来る様に対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の参加を促しています。モチベーションが保てるように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事例検討会やケアマネ事例検討会等の勉強会の活動に参加して、情報交換しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時からご本人についての情報、生活歴や趣味、嗜好等をお聞きし、ご本人の要望や意見を伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と連絡を取り合い、不安や要望を話す事が出来る様に配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームでは対応できないサービス場合は、ご本人に必要なサービスは何かを、ご家族にお伝えし、必要としているサービスの情報を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事やイベントなどを行うときには、共に楽しむ事が出来る様に、入居者様と介護職員が話し合いを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回、生活の状況や、体調面などについての報告をご家族に郵送しています。衣替えの時期などのご家族のご協力が必要な際には協力して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や散歩等は慣れ親しんだ場所に行っています。 面会に関しては、ご家族から協力を頂きながら、いつでも面会出来る様にしています。		

静岡県(グループホームもも 清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席はご本人が安心して日常生活を送ることができ、他の入居者者と交流が図られるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であればいつでも、ご本人、ご家族からの相談や支援を行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して生活が維持できるようにご本人の言葉や表情などの変化を見逃さないように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時からご本人、ご家族また各関係者から情報を得る努力をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族、関わっている関係者(医療等)から情報を得るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から移行を聞き、医療関係者介護職員の日常観察や意見等取り入れて ケアプランを作成し、ご本人やご家族に説明をし承諾を得ています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリング記録を行い、情報の共有をしています。		

静岡県(グループホームもも 清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご本人、ご家族のニーズに応える事が出来る様に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内で交流が出来る様、自治会の行事(各祭りや防災訓練などに)参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の要望を重視しています。かかりつけ医との連携を図り、心身共に健康な生活が維持できるように努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状況等を看護師に連絡、相談しているので、適切な受診が来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院関係(ソーシャルワーカー)と連絡、連携し、ご家族を含めた情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化について、まずご本人、ご家族の意向を確認しています。意向を確認した上、説明させてもらい承諾を頂いたうえで、かかりつけ医、訪問看護師等の協力、連携をとりながら支援を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議やカンファ時に研修、防災訓練などを行っています。また急変時や事故発生時の対応策は掲示しています。		

静岡県(グループホームもも 清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設での防災訓練は年3回利用者と共に、行っています。地域の防災訓練にも参加しています。 運営推進会議にも防災訓練の報告や防災に関しての情報交換をしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重や自尊心の維持を重視しながら、ケアを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がいつでも希望や思い伝えて、自己決定が出来る様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのお気持ちを重視して、安心と安全の中で日々生活が送ることが出来る様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時の洋服選びはご本人が行っているか、職員がご本人に確認しながら行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と話し合いをし、献立をたてて調理する機会を設けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や分量を提供し、食事・水分摂取量が把握出来る様に記録しています。		

静岡県(グループホームもも 清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態で介助を行いながら、起床時、就寝時、毎食後の口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しており、排泄パターンを把握し、その方にあった介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりとってもらうのと同時に、散歩や運動をしてもらい、なるべく自然に排便が出る様に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせた入浴を行っています。 浴室、更衣室等の温度管理(気温、湯温)には気を付けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを崩さないように、個々に合った休息時間が確保出来る様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をひとりひとりのファイルに入れ、服薬の注意等把握出来る様にしています。 薬に変更があった時などは、申し送り(日誌に記録し)しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で洗濯干し、洗濯たたみ、食事の盛り付け、配膳、片付け、食器洗い、掃除、裁縫など個々に参加出来る事を行っています。		

静岡県(グループホームもも 清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望日以外でも外出し、数回車で出かけています。必要時にはご家族に協力して頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせ、ご家族に了承を頂いて、金銭を所持する事が出来ています。外出時には好きな物を選び購入する機会も設けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から自ら電話をしたり、ご家族、ご友人等の電話も取り次いだりしています。手紙も同様に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物、置物(季節の物)を置いて、ゆったりとした家庭的な雰囲気を作るようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子に座り、ゆったりと過ごす時間をとても大切にしています。自由に好きな場所ですごせています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や、寝具、好きな物を自由に置いて頂いています。また本人が使いやすい様に、家具や寝具の場所もご家族に相談して、置くようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には施錠はなく、階段なども自由に昇降出来る様にしています。		